

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 日本三曲協会
公演団体名	公益社団法人 日本三曲協会

実施内容はとくに変更なし。感染症対策については、当協会で定めた別紙に基づいて実施。
(別紙参照「巡回公演対策ガイドライン」「感染防止対策を考慮した箏 WS の運営標準スタイル」)
実施内容については、担当教員や学校側と相談の上、感染症対策に重きを置く形で適宜変更していく。

内容

ワークショップでは、「和楽器の魅力」をテーマとして本公演を行うことを踏まえ、日本の旋律や和楽器に親しみをもってもらうことを第一目的に、主に小学校低学年以上を対象に、楽器の特徴や仕組み、取り扱い、演奏法についてレクチャーを行う。同時に挨拶をはじめとした日本ならではの風習、礼儀作法についても関連付けて指導を行う。

各校ごとに児童・生徒の人数が異なるため、それぞれの希望に適宜対応することになるが、主指導者1名、補助者3～5名のチームで訪問し、音楽室、体育館、多目的教室等で、主に学年またはクラス単位での授業を行う。(学年・クラスの選定方法については、各校の意向に沿うように配慮しながら、指導者の人数などを総合的に鑑みて調整する。)

箏は、約10～20面(原則として2～3名につき1面、最大30面)を用意し、数人が一組になり交代で体験する。

タイムスケジュール(標準)

8時	学校入り
8時～10時	楽器等準備(調弦など)
10時～10時45分(50分)	ワークショップ(学校の1時限を基本)
5分	講師紹介
5分	楽器取扱説明
30分程度	実技指導(演奏方法の説明と体験・模範演奏)
5分	成果発表・質疑応答等
終了後約1時間	撤去作業
12時頃	学校退出

※上記を基本に、詳細は実施校と相談の上決定する為、回数や指導曲等は、学校ごとに異なる。

派遣者数※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者 : 1名
補助者 : 3～5名
楽器運搬調整担当者 : 1名

学校における事前指導

各校の音楽科授業において、ワークショップ体験曲となる、日本古謡「さくら」「かごめ」の歌唱について、音楽授業の年次計画に支障のない範囲での事前指導を願えれば幸いである。事前打ち合わせにおいて、各校の特色と、派遣講師の特色が最大限活かせるように協議し、有意義なワークショップとなるよう鋭意努めたい。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 日本三曲協会
公演団体名	公益社団法人 日本三曲協会

実演内容はとくに変更なし。感染症対策については、当協会で定めた別紙に基づいて実施。
(別紙参照:「巡回公演対策ガイドライン」「感染防止対策を考慮した実演の運営 標準スタイル」)
実演内容については、担当教員や学校側と相談の上、感染症対策に重きを置く形で適宜変更していく。

演目

「和楽器の魅力」をテーマに、箏・三絃・尺八の古典曲を中心に演奏するとともに、各楽器のルーツや特徴について、実演を交えながら紹介する。対象は全児童・生徒、保護者など関係者を想定している。

鑑賞曲目 : 六段の調、八千代獅子、千鳥の曲、松竹梅、根曳の松
須磨の嵐、ひぐらし、春の海、瀬音、鹿の遠音、鶴の巣籠 などの伝統的楽曲
共演曲目 : さくら、かごめ、ビリーブ、越天楽今様 などの親しみやすい楽曲に加え
各校の校歌なども適宜取り入れる。

上記曲目などから、各校の主旨導者が専門とする分野の楽曲を適宜選曲することとする。

派遣者数※派遣者数の内訳を御入力ください

【出演者8名】

リーダー : 1名

演奏者 : 7名

【スタッフ6名】

ファシリテーター(演奏を兼務する場合あり) : 1名

楽器運搬調整担当者 : 1名

舞台進行 : 1名

音響スタッフ : 2名

監修者 : 1名(1つのクルーに原則として一度立ち会う)

タイムスケジュール(標準)

10時 学校入り

10時30分～12時30分 仕込み/リハーサル

13時～14時30分 本公演

14時40分～15時50分 撤去

16時 学校退出

※上記スケジュールは基本スケジュールであり、学校ごとに相談の上詳細は決定する為、
公演時間や演目等は、一部異なる場合がある。(特に休憩の有無や、鑑賞時間について)

実施校への協力依頼人員

児童・生徒の移動及び、整列などは各学校の教員にお願いし、公演時は、児童・生徒、保護者の対応に当たっていただきたい。また、楽器運搬時などは、搬入車の駐車場所から会場への動きなどについて、最も効率的な移動方法を適宜ご指示いただきたい。

演目解説

大陸から日本に伝わった楽器が日本で独自の発展を遂げ、江戸時代から現代まで多彩な音楽を生み出してきた三曲。

三曲とは一般に箏、三絃、尺八による演目の総称で、三者の共演を三曲合奏と呼ぶ。それぞれの楽器はルーツが異なるものの、互いに音色を奏でる事で、古典から現代まで音楽世界に広がりを与える。本公演では、それぞれの楽器の歴史的背景や特色を紹介する。そして、独演及び合奏を行い、三曲による近世邦楽の魅力を肌で感じてもらう。

(曲目解説については、学校ごとに異なるため、鑑賞学年などに合わせて適宜作成する。)

解説例：

「六段の調」： 箏の世界では「六段に始まり 六段に終わる」とも言われる大切な曲で、現在の箏の基本となる「平調子」と呼ばれる調弦法を発案した八橋検校の作曲とされている。のちにブラームスもこの曲を聴き、遠い異国の地である日本に思いを馳せたと言われている。

「鹿の遠音」： 山が赤や黄色に染まる秋、穏やかな風の吹き抜ける中、鹿が鳴き声を交わす様子を表現した曲で、演奏中にはわざと息の音を多く含んだ「ムラ息」や尺八独自のビブラート奏法「ユリ」を使いながら、自然の風景や動物の愛情などを表現している。

「鶴の巣籠」： 「鶴の巣籠」という名前の曲は、邦楽にはいくつもあるが、どの曲も親子の愛情の深さをテーマとしている。演奏中には鶴の鳴き声を模した「玉音(たまね)」という、特殊な演奏法が登場する尺八の代表曲のひとつ。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

ワークショップで体験する「さくら」「かごめ」、音楽の授業で取り組んでおり児童・生徒達が親しんでいる「ビリーブ」などから、事業担当教員及び音楽指導教員と相談の上選曲し、通常授業に負担をかけない範囲で、児童・生徒の合唱や、リコーダー演奏などの練習をお願いし、本公演では派遣講師による和楽器との共演を行う。

児童生徒とのふれあい

テーマである「和楽器の魅力」の通り、児童・生徒達がワークショップにおいて和楽器に触れ、本公演では間近で演奏を聴き、和楽器を伴奏に歌ったりすることによって、邦楽や和楽器をより魅力的に、身近なものとして感じられるように努めたい。